

株式会社ベネッセホールディングス
第 67 期定時株主総会 質疑応答要旨

2021年6月26日

於：岡山県岡山市北区南方三丁目7番17号弊社本社内

当社株主総会における株主の皆様からの主なご質問と、当社からの回答の要旨です。
株主様から事前にいただいたご質問の中から、株主様のご関心が高いと思われる事項について株主総会にてご回答いたしましたので、併せて記載いたします。

1. 事前にいただいたご質問

Q. ベルリッツへのガバナンスは、きちんと機能しているのか。取締役会や内部監査などのチェックは機能しているのか。

A. ベルリッツ事業については、取締役会の重要テーマとして位置付けており、毎月取締役会で業績や事業の状況について進捗確認と検討を行っています。また、他の事業と同様、ベルリッツ事業に関わる重要事項については、取締役会で必要な決裁を受けることとなっています。内部監査の対象として監査が行われており、ガバナンスは有効に機能していると考えています。

Q. ベルリッツが黒字化しない理由は何か。今後、黒字化することができるのか。

A. ベルリッツについては、2017年より新経営陣を招へいし、様々な構造改革を行ってまいりました。2020年には黒字に近い水準への回復を予定していましたが、新型コロナウイルスにより大きな影響を受け、赤字が拡大しました。

この状況を踏まえ、昨年度は人員削減等、追加の構造改革を大規模に実施し、損益分岐点を大幅に引き下げました。この3年間で削減した固定費は約200億円になります。

損益分岐点が下がり、コロナの収束が見え売上が回復してくれば、十分に黒字に転換する見通しがはっきりしています。

またベルリッツ2.0の新しいデジタルサービスも実装され、これによる売上の回復も見込まれます。足元は計画を上回って推移していますが、2022年度の黒字化の達成可能性を今期中に遅滞なく見極めてまいります。

Q. 各取締役候補者について、業績での成果や今後の期待値を定量的な数値で示して欲しい。

A. 各取締役の成果や期待については、単純にひとつの数字として示すことは難しいので、その点、ご理解いただければと存じます。

社長の小林よりプレゼンテーションでお話しました、業績目標、中期計画での目標の達成に向け、

今回の取締役体制で一丸となって達成を目指してまいりたいと思います。

2. 当日のご質問

Q. プロトメディカルケア社をグループインした意図は？

A. 株式会社プロトメディカルケアは、M & Aで本年6月1日にグループインしました。

同社は、介護の周辺領域で複数の事業を手掛けており、介護求人ナビという介護業界の転職に非常に強い Web サイトを持っています。当社では介護周辺領域の拡大、とりわけ人材紹介事業の拡大ということを新中期経営計画で掲げています。今後ますます介護人材不足が顕著な課題になると思われるので、その課題にしっかりお応えし、人材紹介事業を軸としながら、介護周辺事業の拡大につなげていきたいと考えています。

Q. 経済産業省・東京証券取引所が選ぶ「DX 銘柄 2021」に選定されたとのことだが、DX の具体的な施策をお伺いしたい。

A. 「DX 銘柄」には 400 社以上の応募があり、その中から 28 社が選定されました。当社はその中の 1 社です。

当社は昨年度、グループ全体のデジタル推進を目的とした DIP（デジタルイノベーションパートナーズ）という組織を作りました。DIP は、直近のそれぞれの事業の課題の解決、あるいはデジタル化の推進に事業部門と一緒に取り組み、各事業が目指す目的に向かって事業開発を行っていくという強力な組織であります。このように、グループ全体でのデジタル化の推進を目的とした体制を作り上げたことが選定の理由の一つではないかと思えます。

デジタル化というのは、事業によって異なります。

学校においては、ICT 教育が盛んですので、ミライシード、あるいは Classi の教育プラットフォームを提供して、学校のデジタル学習の支援を行っています。進研ゼミは、お客様がデジタル講座を選ぶ比率が 7 割を超えており、デジタル化により、お客様お一人おひとりの学習履歴、習熟の把握ができるようになりました。その人ごとの新しい学びの提案や、オンライン学習の提案をしっかり行い、活用を促進し、事業としても成長していきたいと考えています。

Q. 株価についてお聞きしたい。昨年末から年初にかけて、株価が大きく下がったので大変心配した。今後の目標株価等について教えてほしい。

A. 昨年末から今年の初めにかけての株価下落に大きな影響を与えたのは、一つは新型コロナウイルス感染症の影響で業績が落ち込んだこと、もう一つは、グローバルなインデックスである MSCI の構成銘柄から昨年 11 月に外れたことにより、海外の機関投資家による売却が進んだことです。

私どもは、1 月より、投資家の皆様に、DX 戦略による将来の教育事業の成長、あるいは我々の社会的な課題を解決するという企業理念、足元も着実に業績が回復していること等をご説明しました。その結果、投資家の皆様の買いが進み、年初から約 40% 近く株価が上がっています。

ただ、これで決して満足をしているわけではありません。もちろん株価は需要と供給のバランスで決まっていくため、目標株価をはっきりと申し上げることはできませんが、今後の業績をしっかり伸ばしていくこと、我々の戦略を投資家の皆様にご理解いただけるようにご説明することで、着実に株価を上げていく努力をしていきたいと考えています。

Q. コロナ禍で多様な働き方が求められていると思うが、幅広い事業があり、多様な従業員がいるベネッセでの働き方改革について、取り組みや進捗状況を教えてほしい。

A. 今回の新型コロナウイルス感染症は、働く私たち社員にとっても、非常に大きな影響がありました。

教育事業においては、お客様の学びを絶対に止めてはならないという思い、あるいは介護事業においては、高齢者の方々の安全・安心な生活を守りぬきたいという思い、そして、従業員の誰もが健康を守り、命を守り、力を発揮できるようにしっかりやっていきたいという思いのもとに、働き方改革を進めました。

具体的には、テレワークができる職種においては、積極的に導入しました。例えばベネッセコーポレーションにおいては、出勤率が 50%以下となるように、さらには緊急事態宣言下では 30%以下になるようにコントロールし、出勤とテレワークを組み合わせたハイブリッド勤務が、すっかり定着しています。働き方が変わっても、お客様により良いサービスを届けるという思いをぶらすことなく、生産性を上げることができる勤務の在り方を検討してきました。具体的にはワークスタイルの変革プロジェクトを社内で立ち上げ、我々が力を発揮できる働き方を実行に移し、オフィス改革も行いました。

また、誰がどこで働いているのか、今何をしているのかがわかるようなシステムを開発し、導入しました。コミュニケーションが円滑に進むような働き方、さらに生産性が上がるような改革を進めています。

これからも安全・安心、感染予防を徹底したうえで、さらに社員が力を発揮できるような働き方改革を推進していきたいと考えています。

以上